

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ 「第1回金融資本のあり方に関する産学官フォーラム」
- 2ページ 待望の国際学術総合研究棟落成!
- 3ページ 学生インタビュー
- 4ページ GraSPP学生自治会のご案内 / 編集後記

第1回金融資本市場のあり方に関する産学官フォーラム

前特任准教授 今泉宣親



2017年6月1日(木)、伊藤国際学術研究センター地下1階ギャラリー1において、「第1回金融資本市場のあり方に関する産学官フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、みずほ証券株式会社の支援を得て2007年度より開講されている寄附講座「資本市場と公共政策」の一環として設立されたもので、金融資本市場を取り巻く新しいテーマについて、金融実務家・法曹関係者・研究者・政策担当者からなる産官学の有識者と、各回のテーマの専門家にお集まりいただき、議論いただくことを目的とした研究会です。

超高齢化・人口減少社会到来という構造変化の進む中、経済成長に金融がいかに貢献していくのか、そのために金融資本市場や金融機関がいかにあるべきかが、一層重要になっています。特に、千数百兆円に及ぶ家計金融資産の行方を握るインベストメントチェーンを取り巻く問題や、金融産業のあり方に迫るITとの関わり問題は、「経済

成長に貢献するこれからの金融」を考える上で重要なテーマです。

これらの課題のうち、今はまだ行政や司法の場で具体的な事案にはなっていないものの、近い将来、議論の中心に現れてくることが予想されるテーマをフォワードルックに取り上げ、有識者同士の議論を通じて、課題を抽出し、解決のヒントを探すことを目指しています。

第1回では「ロボアドバイザー等の資産運用型FinTechサービスとフィデューシャリーデューティ」を取り上げました。既存の金融サービスの代表としてみずほ銀行執行役員 仙波陽平氏を、FinTech事業者の代表としてお金のデザインCOO 北澤直氏をお招きし、それぞれのサービスについてご紹介いただき、さらに一橋大学法学部教授 角田美穂子氏より法的責任分担を巡る論点整理をしていただいた上で、自由討議に入りました。

メンバーでの議論では、ロボアドバイザーのアルゴリズムなどがブラックボックス化する中で顧客本位の確保の方策や、担い手が人の場合と機械の場合とで法的責任の考えに違いが生まれるのか、といったテーマについて活発に意見が交わされました。議論の詳細や当日のプレゼンテーション資料は、寄附講座のホームページ(<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/CMPP/forum/report.html>)に掲載していますので、興味のある方はぜひご覧ください。議論の内容が、金融とITが結びついた新しいサービスにおいても、顧客本位が一層追求されていくひとつのきっかけになっていけばと考えています。

私自身は、2年間にわたる東京大学公共政策大学院における教員の任期を終え、7月より金融庁の行政官に復帰しました。本フォーラムの立ち上げをはじめとした在職中の業務に関しまして、諸先生方や関係者の皆様のご指導・ご協力に深く感謝いたしますとともに、東京大学で様々な先生方や優秀な学生の皆さんより受けた刺激を、我が国金融行政のさらなる高度化に役立てていくことで、皆さんに恩返ししていきたいと思っております。

待望の国際学術総合研究棟落成！

今年の夏に、GraSPPの悲願、宿願、待望である国際学術総合研究棟(通称・新棟)が完成し、教育・研究機能がほぼ集約されました。授業を行う演習室、セミナー等のイベントが開催できる講義室も整いました。今まで授業のたびに広い構内を行ったり来たりしていた学生の負担は、かなり減るものと思います。

8月30日には竣工記念式典・祝賀会が開催され、GraSPPの運営諮問会議議長 川口順子氏(明治大学国際総合研究所フェロー)、国際アドバイザーボード委員 奥正之氏(三井住友フィナンシャルグループ 名誉顧問)お二方がご出席くださったほか、森田朗初代院長、金本良嗣第2代院長、城山英明第5代院長、飯塚敏晃現院長が出席し、GraSPPの新拠点の門出を祝うめでたい日となりました。



今年のホームカミングデイは、**10月21日**にこの新棟で行われます。「こんな立派な建物ができたなんて！」と地団太踏んで悔しがっている修了生の皆さん、実物をご自身の目で確かめにいらっしやいませんか？

●登録はこちらから。



●イベントの詳細はこちらから

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/events/2017-09-22-11400/>



学生インタビュー

第25回

松川 広司さん (国際公共政策コース2年)



—自衛隊からGraSPPにいらしたと伺いました。

海上自衛隊に所属しています。これまでは主に航空部隊で勤務してきました。もともと、パイロット志望で、就職活動の際に自衛隊パイロットという選択肢を知り、この道を選びました。

入隊後、江田島(広島)の海上自衛隊幹部候補生学校で学びました。同期は一般大学卒と防衛大学校卒がそれぞれ約100名という構成でした。卒業後、約半年間の遠洋練習航海に出ました。ハワイ、アメリカ西海岸サンディエゴ、メキシコ、エルサルバドル、ペルー、チリ、タヒチ、ニュージーランド、オーストラリア、マレーシア、韓国をめぐる。最終寄港地の韓国には、遠洋練習航海として初めて入港し、交流が叶いました。エルサルバドルはとくに印象に残っています。治安がよくないので、研修場所に向かうときに、警察と軍隊が前後について、ものものしく護送されました。長男は私がアメリカ西海岸の洋上にいるときに産まれました。東京の晴海に無事到着し、感動の初対面のはずが大号泣されたことを覚えています(笑)。

私は当初、パイロットを目指していましたが、最終的にはP-3C哨戒機の戦術航空士(Tactical Coordinator: TACO)となりました。小月基地(山口)と下総基地(千葉)で航空士としての訓練を受けた後、那覇基地(沖縄)、厚木基地(神奈川)で勤務しました。また、2013年に4カ月間、ジブチ共和国でソマリア沖・アデン湾の海賊対処に従事しました。ジブチには自衛隊初の海外活動拠点があり、各国の視察やVIPを受け入れることも多く、私はその対応を担っていました。地元の人向けに柔道教室を開いたり、文化交流の一環で沖縄のエイサーを踊ったり、他国軍の基地と交流したり、面白い毎日でした。ジブチはイスラム教国とはいえ世俗的で、旧宗主国がフランスであるため、ワインも食事もおいしかったです。日本にいるときと比べて地上での業務量も少なく任務飛行に専念できましたし、運動やトレーニングも十分にできて、非常に充実していました。

—久しぶりの学生生活はいかがですか？

自衛隊からGraSPPに入学したのは私が初めてです。せっかく

機会を頂いたので、単位取得以外の科目もできる限り聴講しています。地域政治研究の科目は、履修と聴講を含めて全て取ろうという目標を立てています。実は自分で「自己紹介した科目は、どんなにきつくても逃げない」というルールを課しています。私のようなバックグラウンドだと、良くも悪くも印象に残り、次の授業にいないと「あの自衛官、逃げたな」と思われますし(笑)。大学院生活の総仕上げとして、研究論文も書いています。藤原帰一先生に指導教官をお願いし、ウクライナ危機前後のNATOの変化をテーマに執筆を進めています。

週末は子どもと過ごすように努めています。父親が家でも勉強している背中を見ているからか、子どもたちも、図らずも勉強するのは当たり前と思ってきているようです。いまは漢字検定の家族合格表彰状を目指し、みんなで合格を目指しています。また、最近はキッズ・トライアスロンの出場に向けて練習に励んでいます。文武両面において困難に負けずにチャレンジできるような、強い人間に育って欲しいと思います。(インタビュー・文責 編集担当)



GraSPP 学生自治会のご案内

自治会広報担当 飯田恭子・田中凜々子



こんにちは！ GraSPP学生自治会広報担当の飯田と田中です。GraSPP学生自治会は今年の5月より役員を14人に増員し、学生向け社会・文化的行事の企画と学生間の国際文化交流推進を目的に、現メンバーで活動を始めました。今年度の夏学期には全体交流会を2度開催しました。どちらも多くの学生達にご参加いただき、他コース間の交流も深まったように感じました。翌年5月まで様々な行事を企画する予定ですので、GraSPP関係者の皆さんは是非ご参加ください！

今回のニュースレターでは、2度開催した全体交流会について振り返りたいと思います。皆さんの参加の有無にかかわらず、全体交流会の様子が少しでも伝わると嬉しいです。

第1回GraSPP全体交流会は2017年6月17日に実施されました。当日は約50名が参加し、大いに盛り上がりました。学生自治会新役員14人による初めての行事でしたので、情報共有や参加者人数の確保などで多少苦労はありましたが、各々全力で職務を全うすることで無事に行事を企画・進行できました。当日の参加者からは「いろんな人達と知り合えた！ また次回も参加したい！」という声をいただきました。

た。今後も学生間をつなげる活動を継続的に実施していきたいと思います。

第2回GraSPP全体交流会は7月28日に実施されました。題して、「Happy Summer Holiday Party」！ テスト期間が終わりに近づく中で一足早く夏休みの解放感を満喫すべく、第二食堂を貸し切って約30名の参加者と共に夏休みの到来を祝いました。GraSPPに興味のある学部生も参加し、交流の輪を皆さんで広げていました。

GraSPPの皆さんのおかげで、どちらも大変充実した行事となりました。ありがとうございます。

次回は9月頃に新行事を企画予定ですので、是非楽しみにしてくださいね。今後も学生間の交流を推進すべく、年末には忘年会、3月には謝恩会、5月には五月祭といった活動を企画・検討しています。皆さんが楽しめるような活動を今後も実施していきたいと思いますので、「これも企画してほしい」「これはこうしてほしい」などのアドバイスやご意見がありましたら、ぜひお気軽にGraSPP学生自治会役員までお知らせください。



編集後記

現在はシンガポール外務省に勤務するシンガポール人の修生Warran Kalasegaranさんが小説を出版しました。タイトルは"Lieutenant Kurosawa's Errand Boy." 第二次世界大戦後の日本占領下のシンガポールから始まる物語で、同地の「最も高額な賞金が与えられる文学賞」のEpigram Books Fiction Prize候補にもなりました。GraSPPに在学中に執筆を進めていたそうです。面白そうなので読んでみようと思います。皆さんもいかがですか？

<https://shop.epigrambooks.sg/collections/new-releases/products/lieutenant-kurosawa-s-errand-boy>
(編集担当)

vol. 49 NEWS LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2017年10月11日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>